

知るも知らぬも美人外タレの日本詣でワンサカの春

「大きな魚が多いのでびっくり」築地市場を見物した女優、オーレ・アッテカ

パリっ子も寿司食いねえ

オーレ・アッテカは、南仏生まれの十九歳。女性監督のヴィルジニ・テヴネの「サム・サファイ」(七月、渋谷・東急Bunkamura)・シネマで上映予定)で、主人公のエバを演じている。

サム・サファイとは、フランス語で「もう、たくさん」という意味だ。エバはサーカスでストリップを演じてみるような自由奔放に生きる二十五歳のパリジェンヌ。

だが、ある時、堅気の生活に憧れ、家政婦をやったり市役所に勤めたりする。九〇年代、若者はまじめな生活を求めている」というのがテヴネ監督の主張だ。

オーレは、三月二十七日に来日し、七日に帰国する。

「おいしいスシを食べたい」と、スケジュールの合間を縫って東京・築地の魚市場に出かけたのは、今月一日の朝七時。

広い市場の中を一通り案内されて運動になったか、美味そうないにつられ、足が止まったのがラーメン屋。これから寿司を食べる予定が、「ラーメン一丁」。

寿司屋にたどりついたときにはおながふくれ、せっかくの江戸前の寿司を半分も残し、「もう、たくさん」